

景況レポート

4月

4月の県内景況は、先月同様横ばいに推移しており、依然として厳しい環境にある業種が多く見られた。

情報連絡員による平成30年4月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は12.7%（前月比-0.7）となっており、「横這い」は45.4%（同+4.8）、「低調」とするところが41.9%（同-4.1）、業界全体の「景況感DI」は-29.1%（同+3.6）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「業界の景況」「売上高」「在庫数量（製造・商業）」「取引条件」「資金繰り」「設備操業度（製造業）」の6項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、食料品製造、繊維製品製造、木材木製品製造、鉄工機械製造、その他の製造、卸売業、小売業、サービス業が「曇り」または「薄曇」、商店街、建設業、運輸業が「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、12.7%（前月比-2.7）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答7件）（製造業5、非製造業2）。また、変わらないは、61.9%（前月比+6.2）と増加しております。一方、やや悪化、悪化の見込みは、25.4%（前月比-3.5）と減少しております。

平成30年4月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率91.6%）

食料品製造業

<漬物>

運賃、添加物、包装資材などあらゆる仕入が高くなり、値上げをしないと採算が合わなくなっている。

<味噌醤油>

製造コストの上昇や海外の需要増が原因でみその主原料の加工米、醤油原料の小麦をはじめ、資材・副材料が4～5月より軒並み値上がり、海外依存の物は為替の影響もある。味噌醤油の出荷が減少傾向にある現状の中、大幅な製造コストアップで厳しい運営を強いられている。

<菓子>

花見から端午の節句までの繁忙期も終わりを迎えた。必要な原材料が市場に不足して買えず苦慮しており、厳しさが一層増している。

<酒造>

吟醸酒は前年並みだが他はすべて落ちており、出荷が少しずつ伸びてくる時期に、全体的に落ちている状況は深刻である。異常気象による花見時期の変化やアルコール離れが要因に思える。

繊維工業

<ニット>

例年以上の暖かさによる影響で、イベントや季節商品が前倒しとなったが消費等は例年に近い推移であった。今後は原油・原材料の高騰等で収益に影響が出てくる見通し。難しい状況が続いている。

<縫製品>

縫製品は季節に左右されるため、受注数等の増減もあり好景気への指数が上昇しにくい。

木材・木製品製造業

<製材業>

原木について、年度末でふくしま森林再生事業による一般材の出材がピークを迎えた。スギ母屋・ヒノキ土台用は需要が堅調である。製材品について、民間・公共向けとも製品の引き合いは低調となっており、県内外とも実需は少ない。

<外材輸入>

現地価格の高騰や数量不足が続き荷動きについても低調で、市況は弱気配で推移しており厳しい状況が続いている。

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	☀️ 14.29	☔️ -42.86	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -28.57	☁️ -14.29	☁️ -28.57	☁️ -28.57	☁️ -14.29	☀️ 14.29	☁️ -28.57
繊維製品製造	☁️ 0.00	☔️ -33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☀️ 33.33	☔️ -33.33	☁️ 0.00	☔️ -33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00
木材木製品製造	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☀️ 25.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00
鉄工機械製造	☀️ 25.00	☀️ 50.00	☀️ 25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00
その他の製造	☔️ -83.33	☔️ -33.33	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -16.67	☁️ -16.67	☁️ -16.67	☁️ -16.67	☔️ -33.33	☔️ -33.33	☁️ -16.67	☁️ -16.67
卸売業	☔️ -50.00	☀️ 25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -25.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00
小売業	☀️ 22.22	☔️ -33.33	☁️ -22.22	☔️ -33.33	☁️ -11.11	☁️ 0.00	☁️ -11.11	☔️ -33.33	☁️ -11.11	☁️ -22.22	☁️ 0.00	☁️ 0.00
商店街	☁️ -25.00	☁️ -25.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☔️ -50.00	☁️ 0.00	☔️ -50.00	☁️ -25.00	☔️ -50.00	☁️ -25.00	☔️ -75.00
サービス業	☀️ 16.67	☔️ -50.00	☀️ 33.33	☀️ 16.67	☀️ 50.00	☁️ -16.67	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☀️ 16.67	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -16.67
建設業	☔️ -60.00	☔️ -60.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☁️ -20.00	☔️ -60.00	☁️ -20.00	☔️ -40.00	☁️ -20.00	☁️ -20.00	☁️ -20.00	☔️ -40.00
運輸業	☔️ -66.67	☔️ -100.00	☁️ 0.00	☁️ 0.00	☔️ -66.67	☔️ -100.00	☔️ -33.33	☔️ -33.33	☔️ -33.33	☔️ -66.67	☔️ -33.33	☔️ -66.67

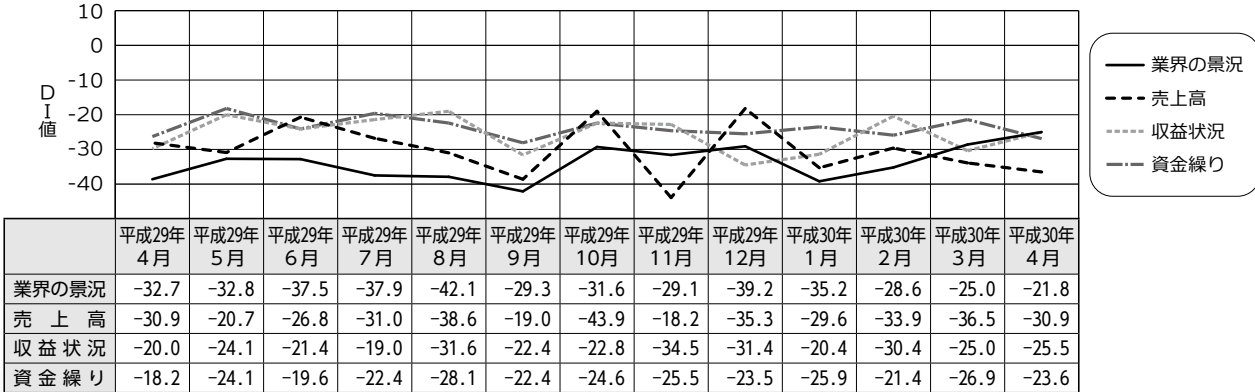
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- ☀️ 快晴 30以上
- ☀️ はれ 10～30未満
- ☁️ うすぐもり -10～10未満
- ☁️ くもり -30～-10未満
- ☔️ 雨 -50～-30未満
- ☔️ 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成29年4月～平成30年4月）



紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

大手段ボール箱製造業者及び印刷代行業者はフィルムセットから製品までが自動化されており、人が関わる部分が減りつつあるがその中で地場産業であるべき貼箱製造業者が駆逐され仕事量が減少している傾向にある。地場産業育成及び地方文化に最も適している高級貼箱製造に多く期待している。

印刷

<印刷業>

年度末の仕事量から一転して通常月の生産体制となった。今後も需要回復には至らず当面の売上確保は各社とも苦戦する見通しである。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

平成29年度末に碎石を使う公共事業が皆無に近くその影響で注文も少なく昨年対比で約30%以上減少している。

<生コン>

平成30年4月の組合員生コン出荷数量は、

128,131m³と対前年同月比-9.5%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比-2.5%、官公需が-18.6%であった。

○民需の動向

対前年同月比 -2.5%

対前年同月比増加地区

県中地区：+27.1% マンション新築工事、研究所工事等

会津地区：+6.7% 本名ダム・日橋川発電所、ナリ会津太陽光発電所工事等

対前年同月比減少地区

県北地区：-0.4% 印刷センター工事、工場増築工事等

白河地区：-14.9% 研修センター工事、倉庫建設工事等

いわき地区：-6.9% ショッピングモール建設工事、倉庫増築工事等

相双地区：-15.7% 雑固体焼却炉建屋新築工事、広野火発石炭貯蔵設備建築工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -11.6%

対前年同月比増加地区

相双地区：+23.0% ふたば未来学園建設、檜葉町屋内体育館新築工事、海岸復旧工事等

対前年同月比減少地区

県北地区：-63.5% 伊達・桑折間跨線橋工事、伊達市役所本庁舎増築工事等
県中地区：-36.2% 三森3号橋下部工工事、須賀川市ゴミ処理施設工事等
白河地区：-18.9% 千五沢ダム改築工事、釜子小学校体育館工事等
いわき地区：-35.0% 常磐道4車線化工事、市内病院新築工事等
会津地区：-18.9% 会津美里町役場新築、農業用河川工作物工事、会津坂下消防署新築工事等一般機器

一般機器

<鉄工工業>

(県中)

3月と変わらず(製作遅延)。材料の値上げがあり、製作費に影響している話が多い。協力会社(とび、運搬)の確保が困難。

<各種プラント機器>

新年度に入り、新予算に基づき引合い物件が増加し、売上高も前月比33%増となった。前年同月比においても、8%増と明るい新年度スタートとなり、先行きに期待できる。

その他の製造業

<漆器>

決定ではないものの、大口の取引照会が少しは出るようになった。

卸売業

<卸売業>

売上については4月期に入っても全体的に緩やかに下降しているようだ。事務機・文具などは売上が上がったが季節的なもので期待しているほどではなく、建築・資材関係は概ね横ばいだが、2年前ほどの需要のボリューム感はない。

<再生資源>

鉄スクラップの輸出価格に底入れ感が出始め、5月連休に向け様子見の状況である。古紙市場は、雑誌・雑紙が依然不調、段ボール・新聞の価格下げも止まらない状況である。

小売業

<共同店舗>

(〇ショッピングセンター)

売上高、来店客ともに前月比不変、前年比売上減少。消費者人口減少に加え、購買活動の低迷を感じる。

<石油>

中東情勢(シリアへのミサイル攻撃)の悪化により原油価格が高騰、仕入価格も毎週アップし市場転嫁も困難。上昇分の転嫁をすれば買い控えが発生する。売上が上がっても利益は減少する。

<水産物>

初がつおの時期で顧客の反応は良いがアニサキス食中毒が時々報じられるので販売時に注意している。

<青果>

野菜単価は平年並みに落ち着いてきているが、品薄による取扱の減少もあり売上高が伸び悩んだ。今後、新たなスーパーの開店があるため、小売店にとっては

益々厳しい経営を強いられるものと予測する。

<家電>

今後、合展、個展が各地であり多少の売上増加が見込める。夏場の暑さの度合いにより相当売り上げに影響が出ると見込まれる。

商店街

<福島市>

今年は桜の開花が早かったため花見山への観光客が例年より長期間に渡り、月を通して賑やかであった。また、駅前通りのリニューアルが終わり、また、好天の日が多かったこともあり来街者が多かったように見える。アーケードを外し歩道を広げたことにより、開放感があり、賑わいがあるように感じる。これらの、見える、感じるといったイメージを確実に反映させていくことがこれからの課題である。

<郡山市>

これまで長年、商店街の歩行者天国が土日祝であったが、4月末より日曜のみとなった。イベント時は、今まで通り歩行者天国にて開催が可能。この対応により今後の影響について注意深く見ていく必要がある。

<南相馬市>

4月下旬に春祭り歩行者天国を実施、快晴が後押しし子ども達や若者を中心に約7,000人の来街者で賑わった。震災から8年目を迎えようやく落ち着きが見え始めている。

<いわき市>

例年より暖かい日が続く商店街を歩く方も増えてきているが、売上増とまではいかない様子。年々常連客の高齢化が進み、次世代の来街者も増えず固定客も減少しており、新規店舗も増えないため、抜本的な対策を講じない限り、6月の大型モールオープン以降深刻な影響を受けると予想する。

サービス業

<クリーニング業>

各大手運送会社の値上げにより、洗剤メーカーによる卸価格への価格転嫁が2、3月より行われている。さらに5、6月にかけては石油製品(主にポリ製品、洗剤含)の値上げとなるため資材価格上昇により経営を圧迫しかねない状況である。クリーニング料金への転嫁を考えてはいるが、タイミングを見定めている。

<旅館業>

(いわき湯本)

原発の風評被害で業績が伸びない。

(土湯温泉)

花の開花が例年より早かったことから、宿泊のキャンセルが一部に発生した。また、野生動物の被害により観光資源でもあるミズバショウの数が激減してしまい、観光客も減少してしまった。しかし、大型連休前半の観光客入込も順調であり、好天も続いたことから前年より活気のある月となった。コードF6や新たな公衆浴場のオープン、えびの釣り堀開設などのイベントも功を奏した。

<理容業>

前月に続き今月も天候に恵まれずまずまずの状況であった。特に月初めは暖かい日が続く多忙となった。桜も例年より早く前半は良好、その後退潮した。後半は大型連休の外出準備もあり客足も増えたが全般的には例年通りの状況であった。

建設業

<建設業> (県南地区)

土木・建築工事ともに工事物件が少なく低迷しており、全体として低調である。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請が減少した。前年同月対比では給水設備申請が増加し排水設備申請が減少している。

運輸業

<トラック団地> (県北地区)

燃料費が少しずつ上昇している。

<ハイヤータクシー>

異常気象により桜の開花が早まるなど、例年通りの動きとはならず、悪化につながったと考えられる。

県政トピックス

2018. 5

募集 「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」(国補助金)

東日本大震災で特に大きな被害を受けた津波浸水地域、及び福島県全域（避難指示区域等を除く。）に立地する企業の皆様に、工場等の新增設経費の一部を補助する制度です。

◆受付期間（第8次）～平成30年8月24日(金)

◆補助内容

- 対象施設 (1)工場、(2)物流施設、(3)試験研究施設、(4)コールセンター、データセンターの用に供される施設、(5)東日本大震災復興特別区域法に規定する認定復興推進計画に基づく施設であり、福島県知事が特に認める施設であって、基金設置法人が認める施設

●交付要件（雇用要件）

投下固定資産額	新規地元雇用者数	投下固定資産額	新規地元雇用者数
5千万円以上	3人以上	50億円以上	50人以上
1億円以上	5人以上	60億円以上	60人以上
10億円以上	10人以上	70億円以上	70人以上
20億円以上	20人以上	80億円以上	80人以上
30億円以上	30人以上	90億円以上	90人以上
40億円以上	40人以上	100億円以上	100人以上

●補助率 津波で甚大な被害を受けた区域

：1/2～1/6（中小企業）、1/3～1/8（大企業）

その他の区域：1/3～1/8（中小企業）、1/4～1/8（大企業）

募集 「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」(国補助金)

被災者の「働く場」を確保し、今後の自立・帰還を加速させるため、避難指示区域等に立地する企業の皆様に、工場等の新增設経費の一部を補助する制度です。

◆受付期間（第3次）～平成30年9月14日(金)

◆補助内容

- 対象施設 (1)工場、(2)物流施設、(3)試験研究施設、(4)コールセンター、データセンターの用に供される施設、(5)店舗、(6)宿泊施設、(7)住宅、(8)機械設備（(1)～(4)の施設で整備するもの）、(9)認定復興推進計画に基づく施設であって、福島県知事が特に認める施設であり、かつ基金設置法人が認める施設

●交付要件（雇用要件）

投下固定資産額	新規地元雇用者数	投下固定資産額	新規地元雇用者数
3千万円以上	2人以上※	50億円以上	50人以上
5千万円以上	3人以上	60億円以上	60人以上
1億円以上	5人以上	70億円以上	70人以上
10億円以上	10人以上	80億円以上	80人以上
20億円以上	20人以上	90億円以上	90人以上
30億円以上	30人以上	100億円以上	100人以上
40億円以上	40人以上	※対象施設(5)、(6)、(7)、(9)の場合のみ	

●補助率 避難指示区域及び避難解除区域（避難解除後1年以内）

：3/4～2/3（中小企業）、2/3～1/2（大企業）

避難指示区域等：2/3～1/2（中小企業）、1/2～2/5（大企業）

問い合わせ先：県庁企業立地課 024(521)8523

HP [みずほ情報総研 補助金](#)

[検索](#)